

するまでの、期待と不安が交錯する8分間はそれは長いものでした。1年振りに浮上して来たブイを見つけた時、乗組員みんなが見せた驚きと喜びの表情・声が強く印象に残っています。

#### 終わりに

係留系の情報収集では水研、北大の関係各位に協力を頂き、また、関係漁協にはこころよく漁場での調査協力を頂きました。ここに記して感謝い

たします。係留観測の成功は、設計段階から船上作業に至るまで、現場をよく知っている乗組員の経験や知識に依るところが大です。今後は、おやしお丸の実績を風化させることなく、この経験が次の係留観測に生かされることを願っています。

(なかた あきふみ 原子力環境センター

報文番号B2326)

## 各水試発トピックス

# 学んだ！染めた！ホタテガイ！ －平成21年度普及指導員一般研修－

今年度の水産業普及指導員一般研修では、ホタテガイの採苗予測技術に係る技術の習得を目的として、「ホタテガイ産卵母貝の卵質評価について」の講義と「ホタテガイ浮遊幼生の免疫染色法による同定手法について」の実習を行いました（栽培水試：9月9～10日、中央水試：9月16日、釧路水試：10月7～8日）。

講義では、水温や産卵時期などの環境要因と卵質との関係の他、年齢別産卵数や産卵回数などホタテガイの成熟・産卵に関する試験の結果を紹介し、実習では、免疫染色によりホタテガイ幼生を染め分ける方法や鉸装（二枚貝幼生のちょうつがい状の部位）の観察による同定方法について技術を体験してもらいました。

ホタテガイ漁業は北海道全域にわたる漁業であるためか、普及指導員の皆様には興味を持って研修を受けていただけたと感じています。私たちとしても、参考になる多数のご意見をいただき、今後の研究・技術開発を行っていくためのエネル

ギーを得ることができました。



写真1 実習風景（免疫染色法）



写真2 実習風景（鉸装の観察）

(高島信一・清水洋平 栽培水試生産技術部)